

## 『 提案書 』 例

FPソフトウェア研究所のソフトウェアを使用した「提案書」のサンプルです。

当研究所のソフトウェアは、作成した表やグラフをワード等の外部ソフトに取込んでご使用いただくことができます。

提案書が一律の形式で自動的に作成される他社のソフトとは異なり、お客様の独自のスタイルの提案書をお作りいただいて、業務に役立てていただけるものと思います。

### 使用ソフトウェア

- ・ FPソフト「ライフプラン」Ver 6.92 (商品番号:A010100)
- ・ Microsoft Excel 2010
- ・ Microsoft Word 2010

### 提案書中の表やグラフ

- ・ 提案書の “ [09]対策の効果 ” “ [11]参考資料：運用利回りの違いによる金融資産の推移 ” は、FPソフト「ライフプラン」の「Doc I」シートおよび「Doc II」シートのドキュメント機能を使用しました。
  - ・ それ以外の表やグラフは、同じく「ライフプラン」ソフトで作成し、ワードに取込みました。
- 具体的な操作手順につきましては、「**表やグラフの取込方法**」をご参照ください。

※ なお、提案書中の会社名、個人名、相談内容などは、実在のものではありません。

## 表やグラフの取込方法

FPソフトウェア研究所では、当研究所のFPソフトによるシミュレーションで得られた表やグラフを、ワード等の外部ソフトに取り込む“ハイブリット型”の文書作成を推奨いたします。それぞれのソフトがお互いの得意な分野を受け持ち、自由な表現を実現できるからです。

ここでは、エクセル上で動作しているFPソフト「ライフプラン」を、ワードで作成する文書に取込む方法をご紹介します。

＜使用ソフトウェア＞

- ・ワード (Microsoft Word 2010) → 表紙、本文、目次などの文書を作成。
- ・FPソフト「ライフプラン」+ エクセル (Microsoft Excel 2010)  
→ グラフやキャッシュフロー表を作成。

**※実行前に必ずFPソフト「ライフプラン」のバックアップをおとりください。**

### A：ワードに表やグラフを取込む方法

1. ワードで文書を作成します。
2. 「ライフプラン」で、ワードに取込みたい表またはグラフの範囲をマウスで選択し  
右クリック、コピー(C) を選択します。
3. 再びワードにもどり、取込む場所をマウスでクリックして指定します。
4. ワード上で張り付けたい場所に移動し、右クリック > 貼り付けのオプションで  
“ 図(U) ” を選んで貼り付けてください。
5. ワードに張り付けたグラフ等の大きさや表の書式を調整することができます。

### B：キャッシュフロー表の必要な部分だけを取込む方法

「ライフプラン」のキャッシュフロー表のデータの中に不要な部分がある場合には、次の手順で不要な部分を表示させないようにしてから、ワードに取込んでください。

1. 「ライフプラン」のキャッシュフロー表のシートを選択します。
2. キャッシュフロー表で行列の番号が表示されていない場合には、  
“ ファイル > オプション > 詳細設定の「次のシートで作業するときの表示設定(S)」で、  
「行列番号を表示する(H)」の左側に チェック (“ ✓ ”) してOKボタンを押下すると、  
画面に行列番号が表示されます。
3. 表示に不要な行または列を選択後に、右クリックで “ 非表示(H) ” を選択します。
4. その後、「A：ワードに表やグラフを取込む方法」でワードにキャッシュフロー表を取込みます。

### C：グラフの書式やタイトルを変更したり、キャッシュフロー表の背景に色をつける方法

計算式や一部の箇所を除きフォントの大きさ、色、種類、背景などのセルおよびグラフの書式、タイトル等は、通常のエクセルの操作方法で自由に変更できます。

変更後も、「A：ワードに表やグラフを取込む方法」で文書を作成することができます。

山田 太郎 様

# ご 提 案 書

キャッシュフロー分析による  
ライフプラン・シミュレーション



株式会社 エフピーベスト  
ファイナンシャル・プランナー 田中 和夫

## [ 00 ] 目 次

- [ 00 ] 目次
- [ 01 ] はじめに
- [ 02 ] ご相談内容
- [ 03 ] 基本情報
- [ 04 ] Aプラン
- [ 05 ] Aプラン キャッシュフロー表
- [ 06 ] Aプランのシミュレーション結果
- [ 07 ] Bプラン
- [ 08 ] Bプラン キャッシュフロー表
- [ 09 ] 対策の効果
- [ 10 ] その他の対策案
- [ 11 ] 参考資料：運用利回りの違いによる金融資産の推移
- [ 12 ] おわりに

SAMPLE

## [ 01 ] はじめに

このたびは、株式会社エフピーベストのサービスをご利用くださりまして、ありがとうございます。  
弊社では、お客様からお伺いいたしました情報とご意向をもとに、様々な角度からライフプランの分析を行い、その改善策などをご提案させていただいております。

本提案書は、特に以下の点を考慮して作成いたしました。

- (1) 現在の収入と支出で住宅を購入した場合、今後の生活に支障はないか。
- (2) お子様の教育費や予定されるイベント等の資金の確保は十分か。
- (3) 定年後の生活資金の確保はできているか。

本提案書が、山田様の今後の生活設計の一助となりましたら幸いです。

SAMPLE

## [ 02 ] ご相談内容

現在は賃貸住宅に住み、3年後の住宅購入を検討中。子供の教育費や老後資金など今後の生活に無理がないかライフプランのシミュレーションをして欲しい。もし問題点があればアドバイスをいただきたい。

希望物件：新築分譲マンション（70㎡程度、3LDK）

物件価格：約3500万円

自己資金：1500万円

購入時期：3年後の2019年

SAMPLE

## [ 03 ] 基本情報

### ■ 家族情報・プロフィール

お名前	続柄	生年月日	年齢	職業・学年
山田 太郎 様	本人	1974 年 1 月 11 日	4 2 歳	会社員
山田 花子 様	配偶者	1976 年 3 月 23 日	4 0 歳	専業主婦
山田 一平 様	長男	1999 年 7 月 11 日	1 6 歳	高校 1 年
山田 正美 様	長女	2002 年 8 月 18 日	1 3 歳	中学 1 年

※ 「年齢」および「学年」は、基準日(2016 年 3 月 31 日)をもとにしています。

### ■ 主な収入

#### 太郎様

- ・ 現在 (4 2 歳時) の会社からの給与の年間の手取り額は 5 2 0 万円。
- ・ 4 3 ~ 4 9 歳までは、毎年 1 % ずつ上昇。(上昇率 1 %)
- ・ 5 0 ~ 5 9 歳は、上昇率 0. 5 %
- ・ 6 0 ~ 6 4 歳は、5 9 歳時の 7 0 % (4 1 0 万円) とする。上昇率 0 %
- ・ 6 5 歳到達時に退職。退職金の予想額は、2 0 0 0 万円。
- ・ 6 5 歳以降の主な収入は公的年金 (老齢厚生年金、老齢基礎年金)、年間 1 6 0 万円。

#### 花子様

- ・ 専業主婦。収入なし。
- ・ 6 5 歳以降の主な収入は公的年金 (老齢基礎年金)、年間 7 0 万円。
- ・ 教育費・住宅ローンなどで家計が苦しくなる場合には、パートに出て働くことも可能。扶養の範囲内を希望。

## ■ 主な支出

### 基本生活費

- ・ お子様は独立する9年後（太郎様51歳）までは、月22万円。
- ・ 52～64歳は、月20万円。
- ・ 定年後（65歳以降）は、月18万円。
- ・ 上昇率は1%とします。

### 保険料

- ・ 太郎様64歳までは、年20万円。65歳以降は、年10万円。

### 住居費

- ・ 現在の賃貸住宅の家賃は、11万円。（管理費込み）  
住宅購入までの3年間に賃貸契約の更新費用は発生しない。
- ・ マンション購入後は住宅ローンの支払いの他に、管理費＋修繕積立金＋固定資産税などの維持費が年間35万円。

### 子供関連

- ・ 教育費（学校外教育費も含む）

#### お子様の進路

- 一平様 私立高校 → 国公立大学（下宿・アパート）
  - 正美様 公立中学 → 公立高校 → 私立文系大学（自宅通学）
- 上昇率は2%とします。

- ・ 子への援助

一平様、正美様の28歳時に結婚準備資金として、それぞれ100万円。

### 自動車

- ・ 所有しない。

## ■ 主な資産

- ・ 太郎様 名義 定期預金 1500万円
- ・ 花子様 名義 定期預金 500万円

積極運用・安定運用の区分をせず、金融資産全部をひとつとして扱い予想運用利回りを1.5%とする。



## [04] Aプラン

まず、山田様より伺いました次のような住宅購入計画、資金計画をそのまま実施するプランを「Aプラン」としシミュレーションを行います。

### 住宅購入計画

3年後（2019年）に新築マンションを購入する。

### 資金計画

#### ・必要資金

物件価格 3500万円

諸経費 350万円（物件価格の10%とした場合）

合計 3850万円

#### ・自己資金（頭金）

1500万円

#### ・住宅ローン

借入額：2350万円

返済期間：25年

長期固定金利（3%）、元利均等返済方式で、年間134万円の返済。

## [05] Aプラン キャッシュフロー表

基準日: 2016/3/31 作成日: 2016/4/1

経過年	現在	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
	西暦	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
太郎様	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳
花子様	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳
一平様	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳
正美様	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳
ライフイベント	<p style="text-align: center;"><b>住宅購入</b></p> 長男: 高1 長女: 中1 長男: 大学入学 長女: 高校入学 長男: 就職 長女: 大学入学 長男: 結婚 長女: 就職 長女: 結婚																				

[単位: 万円]

上昇率

## A: 収入

	520	525	530	536	541	547	552	558	563	569	574	580	586	592	598	604	610	616	2,410	410	410
太郎様の収入	520	525	530	536	541	547	552	558	563	569	574	580	586	592	598	604	610	616	2,410	410	410
花子様の収入																					
その他の収入																					

## B: 支出

	580	556	581	2,271	677	679	777	577	583	588	432	434	537	440	443	446	449	552	455	458	461
基本生活費	264	267	269	272	275	277	280	283	286	289	240	242	245	247	250	252	255	257	260	262	265
保険料	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
住居費	132	132	143	1,669	169	170	170	170	171	171	172	172	172	173	173	173	174	174	175	175	175
教育費	2.00%	164	137	149	310	213	212	307	104	106	108										
子への援助													100					100			
自動車費																					
その他の支出																					

C: 年間収支 (A - B)	-60	-31	-51	-1,736	-136	-133	-225	-20	-20	-19	143	146	49	152	155	158	161	64	1,955	-48	-51
D: 運用益	1.50%	30	30	30	4	2	0							0	2	5	7	10	11	40	40
E: 借入利息の返済	5.00%							-11	-12	-14	-16	-9	-2								
F: 金融資産残高 (前年の金融資産残高 + C + D + E)	2,000	1,999	1,978	273	141	10	-215	-246	-277	-311	-183	-46	0	152	309	472	640	714	2,680	2,673	2,662

経過年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年
西暦	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年	2049年	2050年	2051年	2052年	2053年	2054年	2055年	2056年
太郎 様	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳	80歳	81歳	82歳
花子 様	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳	80歳
一平 様	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳
正美 様	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳
ライフイベント	夫:年金開始 妻:年金開始																			

[単位:万円]

上昇率

## A:収入

	410	410	160	160	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230
太郎 様の収入	410	410	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160
花子 様の収入					70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
その他の収入																				

合計

17,730
16,610
1,120

## B:支出

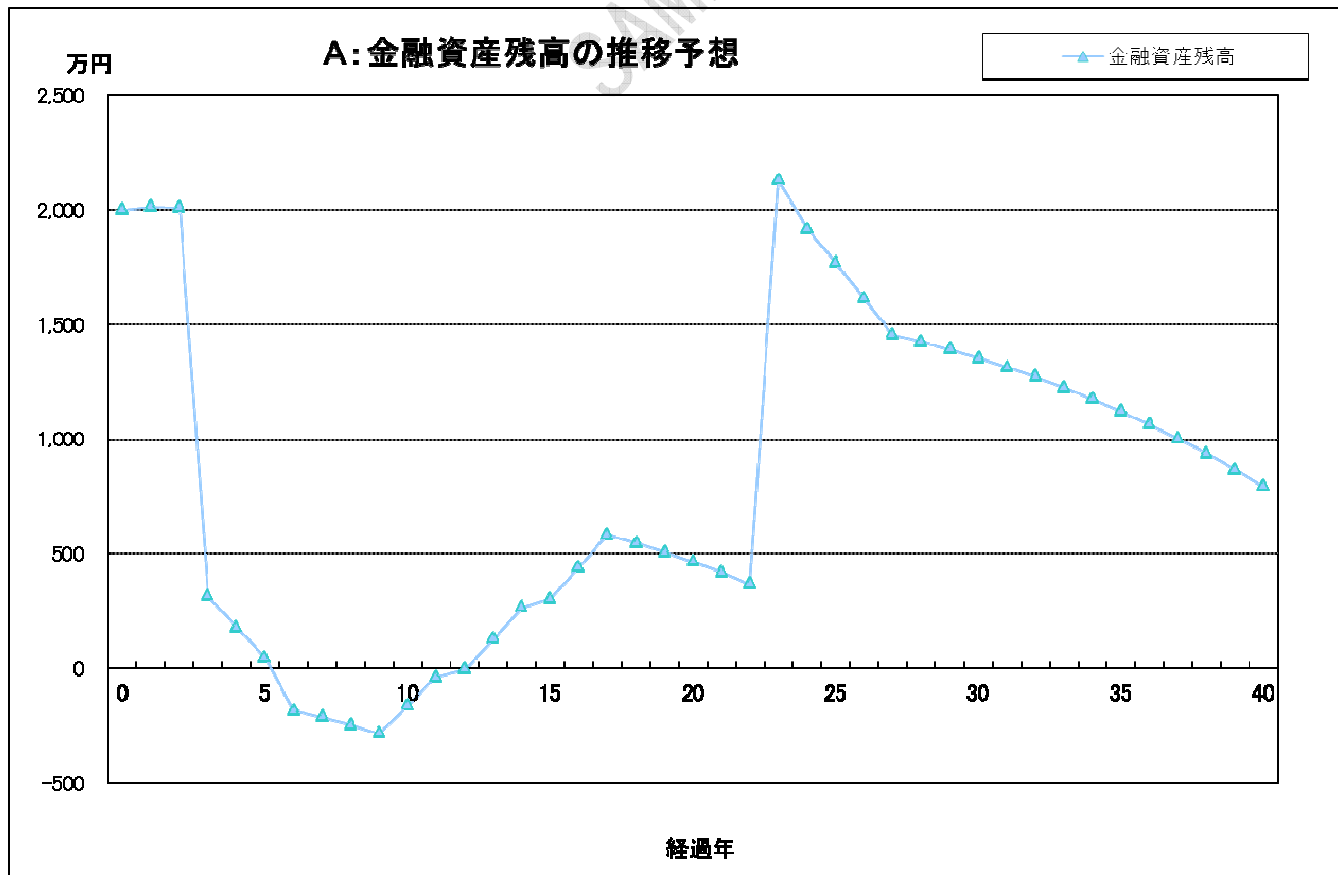
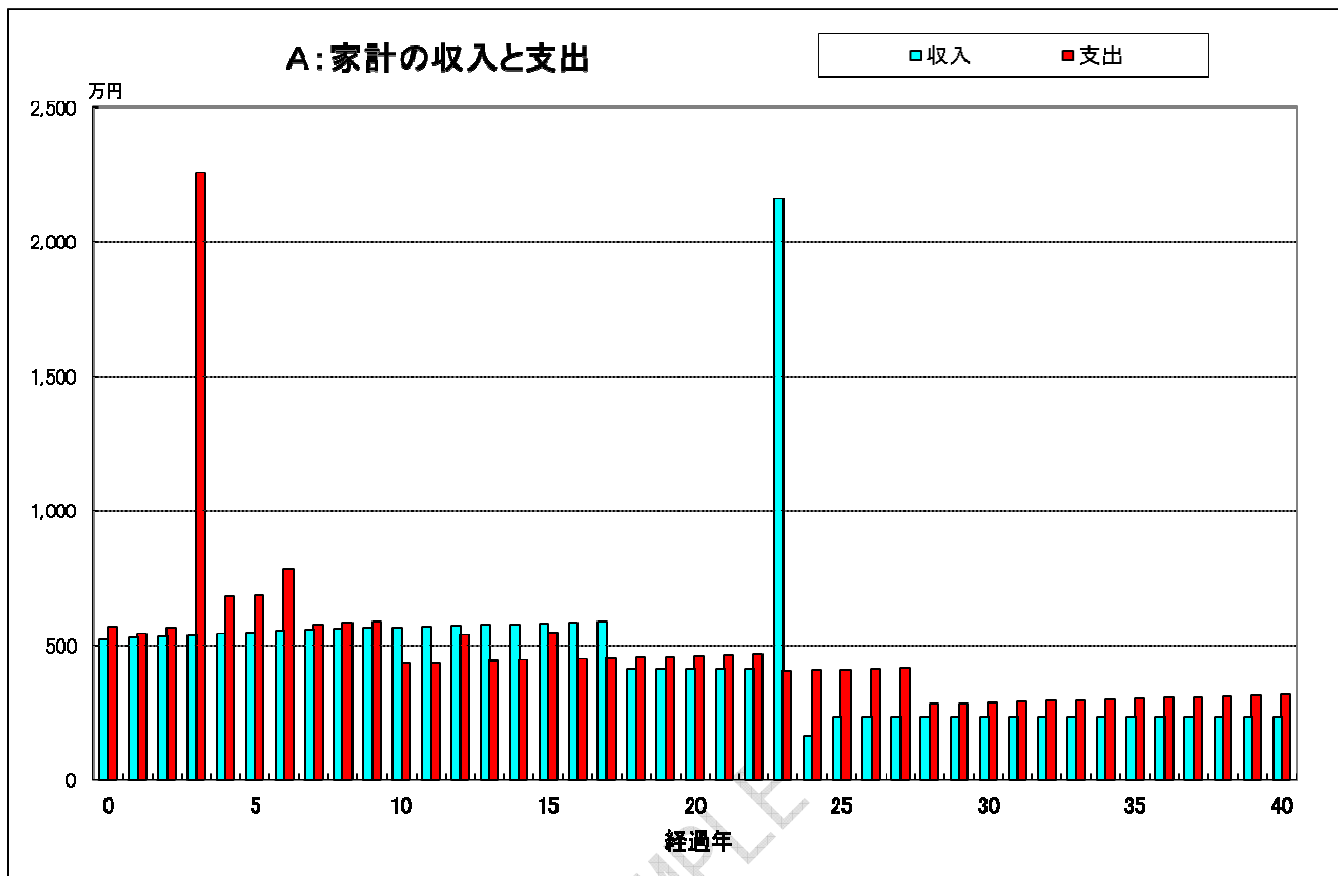
	464	467	403	405	408	411	413	282	285	287	290	293	296	299	302	304	307	310	313	316
基本生活費	268	270	216	218	220	223	225	227	229	232	234	236	239	241	243	246	248	251	253	256
保険料	20	20	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
住居費	176	176	177	177	178	178	178	45	45	46	46	47	47	48	48	49	49	50	50	51
教育費 2.00%																				
子への援助																				
自動車費																				
その他の支出																				

19,249
10,049
620
6,733
1,646
200

C:年間収支(A - B)	-54	-57	-243	-245	-178	-181	-183	-52	-55	-57	-60	-63	-66	-69	-72	-74	-77	-80	-83	-86
D:運用益 1.50%	40	40	39	36	33	31	29	27	26	26	25	25	24	24	23	22	21	21	20	19
E:借入利息の返済 5.00%																				
F:金融資産残高 (前年の金融資産残高 + C + D + E)	2,649	2,632	2,428	2,220	2,075	1,925	1,771	1,746	1,717	1,686	1,651	1,613	1,571	1,526	1,477	1,425	1,369	1,309	1,246	1,178

-1,519
761
-64

[ 06 ] Aプランのシミュレーション結果



< Aプランの課題 >

・ Aプランの収支状況のままでは、今から6年後（住宅取得の3年後）には金融資産がマイナスになり資金が不足します。マイナスのピークは9年後で 311万円不足している状態になります。住宅の購入と教育費のピークが重なる今後9年間の収支の改善が喫緊の課題と考えます。

・ 太郎様の定年退職時（65歳）における金融資産は2428万円、40年後の82歳時点においては、1178万円となっています。社会情勢、経済状況などに大きな変化がなければ特別な問題はないと考えられます。

ただ、定年退職時に 3000～4000万円程を準備できれば、さらに余裕あるセカンドライフを迎えることができます。

SAMPLE

**[ 07 ] Bプラン**

「Aプラン」で生じた課題につきまして弊社で検討を重ねました結果、住宅購入計画の見直しを図ること  
とで問題を回避できるのではないかと考えます。

対応策といたしまして次の3点をご提案いたします。

**住宅購入計画の見直し****1. 購入物件の価格見直し**

現在3500万円の新築マンションをご希望ですが、3300万円程度に抑えるか、または同等のマンションで築浅の中古物件も視野にいれてみてはいかがでしょうか。

**2. 住宅ローンの見直し**

現在の金融資産2000万円のうち住宅購入の頭金に1500万円ということですが、頭金を1000万円程に減らし、手元資金を多めに残して教育費のピークを乗り切るというプランも有効です。

頭金を少なくすると年間の返済額は多くなりますが、余裕があるようなら繰上返済などを行い早めに完済することで返済総額を減らすことができます。

**3. 購入時期の見直し**

3年後に住宅を購入すると住宅ローン返済が教育費のピークと重なりますので、一平様、正美様の大学ご卒業（7年後または9年後）を待ち、教育費がかからなくなってから住宅を購入するなどが考えられます。

上記の案のうち「Bプラン」として、次のような対策を講じたシミュレーションを行います。

**1. 購入物件の価格見直し**

**3500万円 → 3300万円**

**2. 住宅ローンの見直し**

**頭金を 1500万円 → 1000万円**

※ その他の条件は、Aプランと同じです。

## [ 08 ] Bプラン キャッシュフロー表

基準日: 2016/3/31 作成日: 2016/4/1

経過年	現在	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
	西暦	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
太郎様	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳
花子様	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳	57歳	58歳	59歳	60歳
一平様	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳	34歳	35歳	36歳
正美様	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	33歳
ライフイベント	<p style="text-align: center;"><b>住宅購入</b></p> 長男: 高1 長女: 中1 長男: 大学入学 長女: 高校入学 長男: 就職 長女: 大学入学 長男: 結婚 長女: 就職 長女: 結婚																				

[単位: 万円]

上昇率

## A: 収入

	520	525	530	536	541	547	552	558	563	569	574	580	586	592	598	604	610	616	2,410	410	410
太郎様の収入	520	525	530	536	541	547	552	558	563	569	574	580	586	592	598	604	610	616	2,410	410	410
花子様の収入																					
その他の収入																					

## B: 支出

	580	556	581	1,787	693	695	793	593	599	604	448	450	553	456	459	462	465	568	471	474	477
基本生活費	264	267	269	272	275	277	280	283	286	289	240	242	245	247	250	252	255	257	260	262	265
保険料	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
住居費	132	132	143	1,185	185	186	186	186	187	187	188	188	188	189	189	189	190	190	191	191	191
教育費	2.00%	164	137	149	310	213	212	307	104	106	108										
子への援助													100					100			
自動車費																					
その他の支出																					

C: 年間収支 (A - B)	-60	-31	-51	-1,252	-152	-149	-241	-36	-36	-35	127	130	33	136	139	142	145	48	1,939	-64	-67
D: 運用益	1.50%	30	30	30	11	9	7	4	3	3	2	4	6	7	9	11	13	16	17	46	46
E: 借入利息の返済	5.00%																				
F: 金融資産残高 (前年の金融資産残高 + C + D + E)	2,000	1,999	1,978	757	616	476	242	210	178	145	274	408	447	590	738	891	1,049	1,113	3,069	3,052	3,031

経過年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31年	32年	33年	34年	35年	36年	37年	38年	39年	40年
西暦	2037年	2038年	2039年	2040年	2041年	2042年	2043年	2044年	2045年	2046年	2047年	2048年	2049年	2050年	2051年	2052年	2053年	2054年	2055年	2056年
太郎 様	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳	80歳	81歳	82歳
花子 様	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	66歳	67歳	68歳	69歳	70歳	71歳	72歳	73歳	74歳	75歳	76歳	77歳	78歳	79歳	80歳
一平 様	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳	54歳	55歳	56歳
正美 様	34歳	35歳	36歳	37歳	38歳	39歳	40歳	41歳	42歳	43歳	44歳	45歳	46歳	47歳	48歳	49歳	50歳	51歳	52歳	53歳
ライフイベント	夫:年金開始 妻:年金開始																			

[単位:万円]

上昇率

## A: 収入

	410	410	160	160	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230	230
太郎 様の収入	410	410	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160
花子 様の収入					70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
その他の収入																				

合計

17,730
16,610
1,120

## B: 支出

	480	483	419	421	424	427	429	282	285	287	290	293	296	299	302	304	307	310	313	316
基本生活費	268	270	216	218	220	223	225	227	229	232	234	236	239	241	243	246	248	251	253	256
保険料	20	20	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
住居費	192	192	193	193	194	194	194	45	45	46	46	47	47	48	48	49	49	50	50	51
教育費 2.00%																				
子への援助																				
自動車費																				
その他の支出																				

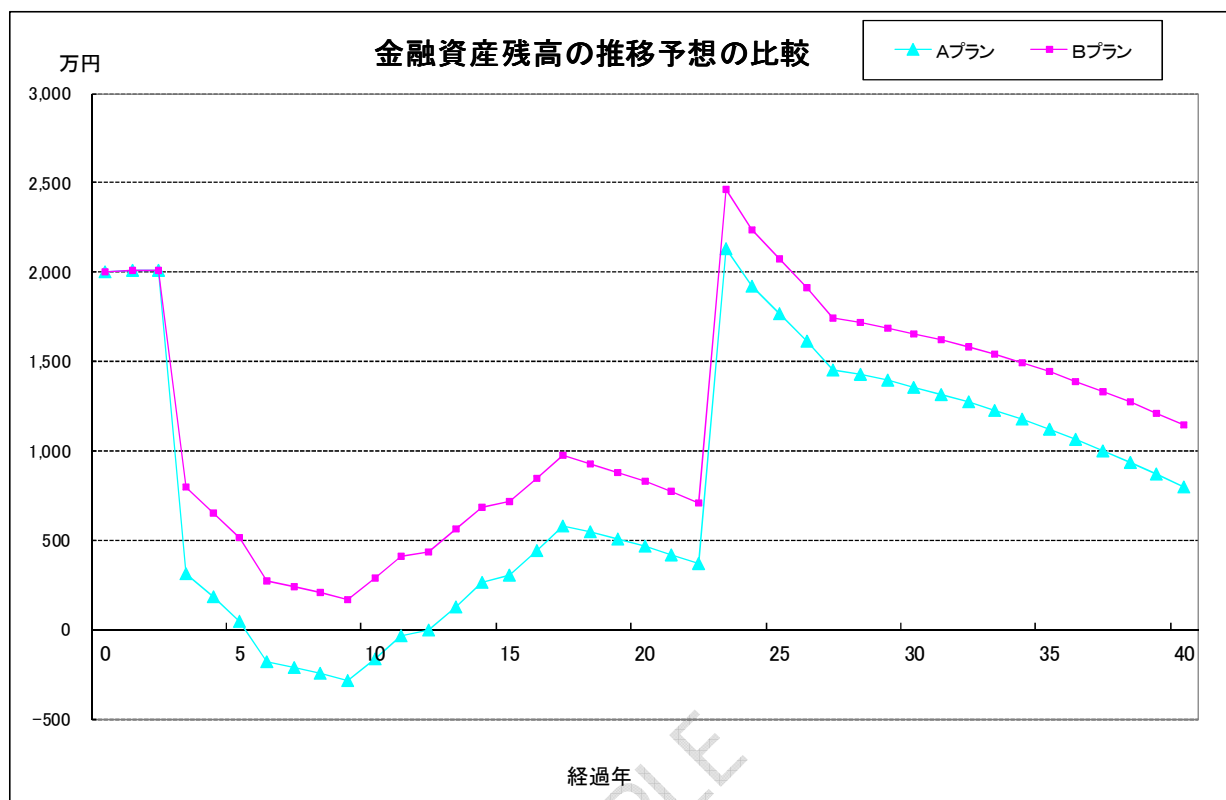
19,149
10,049
620
6,633
1,646
200

C:年間収支(A - B)	-70	-73	-259	-261	-194	-197	-199	-52	-55	-57	-60	-63	-66	-69	-72	-74	-77	-80	-83	-86
D:運用益 1.50%	45	45	45	41	38	36	33	31	31	30	30	29	29	28	28	27	26	26	25	24
E:借入利息の返済 5.00%																				
F:金融資産残高 (前年の金融資産残高 + C + D + E)	3,007	2,979	2,765	2,546	2,390	2,229	2,063	2,042	2,018	1,991	1,961	1,927	1,891	1,850	1,807	1,759	1,708	1,654	1,595	1,533

-1,419
952



[ 09 ] 対策の効果



1. 購入物件の価格見直し

(Aプラン) 3500万円 → (Bプラン) 3300万円

2. 住宅ローンの頭金の見直し

(Aプラン) 1500万円 → (Bプラン) 1000万円

※ その他の条件は、Aプラン、Bプランは共通です。

- ・ Bプランでは、資産残高が一番低くなる局面でもマイナスの陥るのを回避することができます。
- ・ 購入時の頭金を減額した分、借入金額が多くなる(2350万円→2630万円)のために、住宅ローンの支払い額は、総額で約120万円の増加となりますが、ともにその後の収支で対応できる範囲に収まっています。
- ・ 上記2つの対策案を実行することにより、将来にわたって安全な家計運営が可能となると考えられます。

## [ 10 ] その他の対策案

これまでご提案いたしましたプランのほかに、次のような対策案をご提示いたします。山田様とご家族の状況に応じて、実行可能なものを組み合わせていただければよろしいかと思えます。

### 収入を増やす

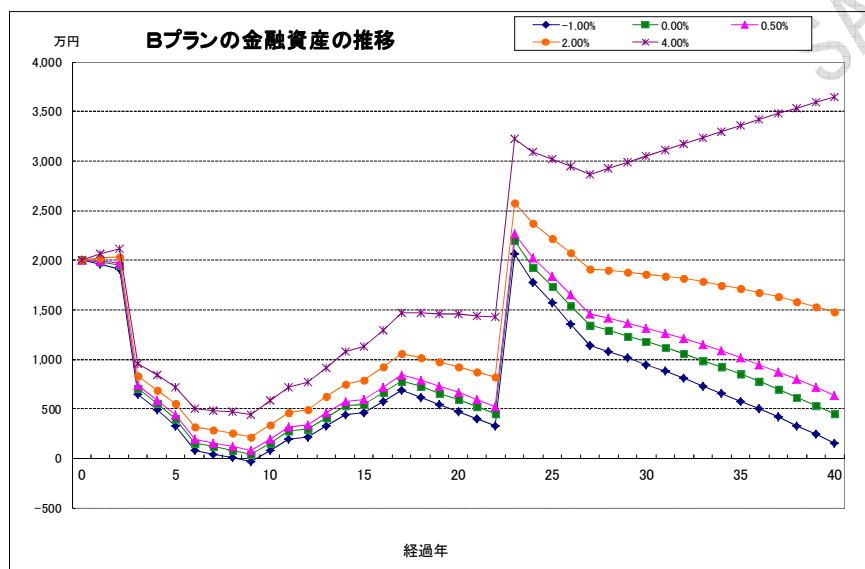
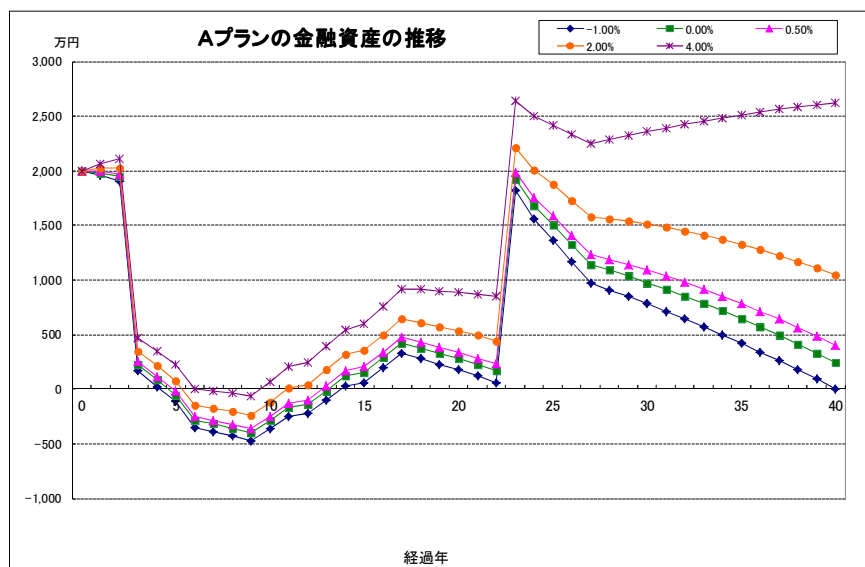
特にお子様が増えるまでの今後9年間につきまして、現在専業主婦の花子様が増えればパートタイムワークなどで収入を得ることができれば、扶養の範囲内でも積み重ねるとかなりの効果が期待できます。

また、さまざまな業種にわたって昇給が難しくなっていますので、可能ならば副収入を得ることなどをご夫婦で検討なさってはいかがでしょうか。ただし、太郎様の本業のお仕事やご体調などに影響がないことを大前提に慎重にお考えください。

### 教育費を検討

教育費の負担軽減のため、奨学金を受けることなども選択肢のひとつかと思えます。

[ 11 ] 参考資料：運用利回りの違いによる金融資産の推移



運用利回りの違いによる金融資産の推移

Aプラン・Bプランの金融資産の推移を、次の5つの予想利回りでそれぞれシミュレーションしたグラフです。

「-1.00%」 「0.00%」 「0.50%」 「2.00%」 「4.00%」

Aプランでは、5つの運用利回りにおいて、金融資産に一時マイナスが生じます。

一方、Bプランでは、「-1.00%」を除いてプラス側にあることがわかります。

## [ 12 ] 終わりに

山田様の現在の収支状況をふまえた今後40年間のシミュレーションを行った結果、住宅の購入と教育費のピークが重なるため一時的に金融資産がマイナスになるおそれがあることがわかりました。

そこで住宅購入計画の見直し案をご提示し、シミュレーションを行った結果、家計がマイナスになるのを回避することができ、長期的にも有効であると確認できました。

さらに他の対策案も加えて実施していただければ、家計に一層の余裕が生まれ、住宅ローンの繰上返済や、老後資金の充実、資産運用など新たな可能性も広がります。

今後とも健全な家計を維持するために、ぜひご家族でご検討ください。

なお、本提案書は、現在の税制・社会保険制度・統計データなどに基づいた一定の前提でシミュレーションを行っております。したがって、今後とも諸条件や経済状況などの変化に応じた定期的なプランの見直しをお勧めいたします。

このたびのご提案が、山田様のお役に立てることを祈りながらご報告を終わらせていただきます。

2016年5月20日